

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【総合的な学習の時間】

#### 1. 対象 肢体不自由 中学部 17人

1年3人、2年7人、3年7人の17人の集団である。A課程の生徒6人は、身近な課題に対して自分の考えをもち、簡単な言葉やサインで他者に思いを伝えることができる。B課程の生徒11人は、体験を伴う活動を通して課題を理解し自分の思いを視線や動作で他者に伝えることができる。各課程の生徒同士の関りとしては、A課程の生徒からB課程の生徒へ休み時間に誘って一緒に過ごす姿が見られる。

今までの探究的な学習として、SDGsの17の目標の中から「3 すべての人に健康と福祉を」をテーマに「自分たちにできる健康のための取り組み」を考える学習に1学期に取り組んだ。課題に向き合う姿としては、A課程の生徒の中には今までの経験から予想をしたり、友達に相談したりする姿も見られるようになってきた。B課程の生徒は、五感に働きかける学習により自分から取り組もうとする姿が見られる。また、自分たちでは分からない問題でも他の人（養護教諭）に聞くことで解決できるという方法を学習することができた。1学期の実践では、A課程の生徒から学習を通して分かったことを他者に伝えたいという思いが高まりB課程の生徒を誘い他学部の教師に発表する姿が見られた。発表では、A課程の生徒が司会や説明をしながら、B課程の生徒が実演を通して「自分たちにできる健康のための取り組み」について伝えることができた。

本単元では、SDGsの17の目標の中から「14 海の豊かさを守ろう」をテーマに、焼津への校外学習で学んだ、海にごみが増えて魚が生活している環境が悪化しているという現状を知り、「自分たちにできるゴミを減らす取り組み」を探究課題として設定する。1学期に学校の隣に流れている栃山川に住んでいる魚を育てる学習に取り組んだ。生徒の多くが魚に興味を示し、名前を付けて飼育する姿が見られた。校外学習では、海の魚に興味を示し、その魚の生活環境が悪化しているという状況を知り、自分たちにできることは何か考える生徒の姿が見られるようになってきた。

#### 2. 単元名「SDGs～ゴミ問題から海の魚を守ろう～」(全6時間)

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	海の魚のために自分たちができることを実行する過程において、それが自分の暮らしにも関わっていることや生活をよりよくする工夫であることを知る
思考力、判断力、表現力等	海の魚のために自分ができることを体験しながら理解し、解決に向けて実行することができる
学びに向かう力、人間性等	海の魚のために自分たちができることを実行する中で、互いのよさを生かしながら表現する態度を養う

#### 4. 本時の目標

海の魚のために私たちができることを他学部の生徒や教師に伝えることができる  
(学びに向かう力、人間性)

5. 授業展開【 **本時** ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

**解決したい課題や問い**

※本時または単元における「解決したい課題や問い」を、実際に子どもに提示する表現で記入してください。

「ごみの分別を教えよう」

**考えるための材料**

今までの学習の様子が分かる写真

想定される活動

ごみについて分かったことを伝える

**考えるための材料**

3種類の色分けされたごみ箱

想定される活動

ごみの分別を伝える

**考えるための材料**

燃えるごみ、プラごみ、紙リサイクルの実物を触ったり比較したりして捨てる

想定される活動

分別して捨てることを伝える

**考えるための材料**

燃えるごみ、プラごみ、紙ごみについてまとめた資料（司会）

想定される活動

ごみに応じた捨て方を伝える

**考えるための材料**

私たちができることが伝わったか評価してもらおう

想定される活動

伝えることができたか、課題は何か知る

**対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）**

※設定する **対話の方法** グループ形態：3グループに分かれてそれぞれ学んだことを発表する。

時間設定：各グループ10分で発表する。留意事項：聞き手やグループのメンバー同士でやり取りしながら発表を進める。

※ **対話や思考のプロセス** を想定：ごみの分別について伝えたい⇒私たちにできることを見たり、聞いたりしてもらって伝えよう⇒実物のごみを使って説明するよ⇒伝わったか聞いてみよう

**学習の成果（予想される生徒のあらわれ）**

※設定した「解決したい課題や問い」に対する子どものあらわれを想定し、子どもの言葉や行動等で具体的に記入してください。

「ごみを分けて捨てることが〇〇さんに伝わった、次は〇〇さんにも伝えたい」

「これからもごみの分別をしていく」